

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和5年11月1日

事業所名 コベルプラス豊中少路教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7		見学スペースがたくさんにならないように、1コマの人数を調整しています。	
	2	職員の配置数は適切である	7			
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7		視覚的にわかる絵などを使っての支援や、トイレに段差があるため、お子様が利用される際は必ず保護者様に付き添いをお願いし、職員も近くに待機しています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7		教室内は常に換気、空気清浄機を使っての清浄を行っています。教材は、使用後全て消毒を行っています。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7		個人ファイルや、HUGを通して利用者様の情報確認や、職員との情報共有の場で意見を出し合っています。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7		職員全員で内容の確認を行い、改善につながるように心がけています。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		7		現在行っていません。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7		社内・社外研修など行い、情報を共有しています。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7			
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7			
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	7		月毎に担当者を決めて立案し、チームで行っています。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		コミュトレの教材は、工作など普段の療育とは違う内容(工作など)のプログラムの構成にしています。	
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7		お子さまの発達に合わせて個別・小集団の併用しています。		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		担当表を常に見えるところに掲示し、職員間で共有・確認を行っています。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7		常時振り返りを行い、職員間で共有しています。不在の職員にも共有できるように、提供記録には共有しておく内容を書きとめています。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7		上記の記録とともに、職員間で話し合い、必要に応じて検証・改善を行っている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7			
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	7			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	/	/		
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	/	/		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	/	/		ご要望に応じて行っています。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	/	/		ご要望に応じて行っています。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	1		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0	7		(主に、プレ・保育園、幼稚園に通われているお子様なのでニーズがない)
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	7		協議会の研修や会議などには積極的に参加し、知識・技術向上に努めています。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		毎回の療育見学中や、毎回の療育後でフィードバックの時間を活用しながら保護者様との共有理解に努めています。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	7		ペアトレ学習会としては行っていないが、フィードバックの時間などに家族支援についての話をすることがあります。必要に応じて別枠のお時間を取ってお伝えすることもしています。		
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		契約時におこなっています。		
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7		支援計画や契約の見直しは、必ず保護者様とアセスメントやモニタリングを行い、支援計画を作成、同意を得ています。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7		療育見学中やフィードバックの時間などに相談に応じてお話しさせていただいております。必要に応じて別枠のお時間を取ってご相談に応じております。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		7	現在はまだ行っていませんが、ソーシャルレッスンで保護者様同士のお話の機会があり、喜ばれています。ご要望に応じて、保護者会の開催を検討していきたいと思っております。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7		相談があった際は、迅速に対応させていただいております。必要に応じて関係機関との連携も行っております。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7		SNS(インスタグラム)を使って、活動や行事のお知らせを行っております。緊急な連絡などはLINE配信も行っております。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7			
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		視覚支援など、障害に応じて情報伝達ができるように心がけております。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		7		地域住民の招待はまだ行っていませんが、今後検討していきます。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7		利用者様、職員の閲覧できる場所(プレイルーム本棚)で開示しています。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7		6ヶ月に1回行っております。	利用者様全員に訓練が出来るように検討していきます。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7		事業所内で、食事をするのではないが、アレルギーについては職員間で把握を徹底しています。アレルギー素材(小麦粉ねんどなど)の使用時にはアレルギー児に対して最善の注意を払って準備しています。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7		コペル全教室の事例報告書を通じて、それぞれが気を付けるように周知しています。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		社内研修を行っています。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7			

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。